

ロシア福音同盟

2022年3月12日

世界の親愛なる兄弟姉妹へ

ロシア福音同盟総主事として、主権国家ウクライナに対する我が国の軍事侵攻に対して悲しみを表明します。

私にとって、他の多くのクリスチャンと同様に、軍事侵攻はショックでした。最悪のシナリオですが、その中でさえ、今、ウクライナで起こっている出来事を想像すらできませんでした。関係の深い二つのグループの人々、(主に正教徒としての)信仰深いクリスチャンが、今激しい戦闘のただ中に置かれています。一方はウクライナを非軍事化することを追求し、もう一方は占領から自分たちの国を守ることを求めています。

多くのロシア人、ウクライナ人は親密な家族関係を相手国に持っています。あるロシア人にはキエフに住む娘たちや孫たちがいるでしょう。あるウクライナ人にはモスクワで暮らし、働いている子どもがいるでしょう。今日、愛する人々に対して、また未来の自分たちのいのちと国に対して、痛みと恐れそして深い悲しみが、彼らの心を稲妻のように突き刺しています。なぜなら、第2次世界大戦以来、この戦争がどこまで広がるのか、どのような結末をもたらすのか、だれも知らないからです。

今日、双方の兵士たちが亡くなっています。平和の感情は爆撃と防空壕への避難の中で消え去り、ウクライナから避難する女性、子どもたち、年配者の方々が難民の流れとなってヨーロッパ中に急速に広がっているのを見えています。

こうしたすべての出来事によって、私は深い悲しみと苦痛を覚え、私の国のリーダーが下した決断を深く後悔し、この決断のゆえに苦しんでいる方々への同情を禁じ得ません。

戦争を防ぐために私ができる事、この軍事侵攻を止める事を私は試みてきました。

- (1) 軍事侵攻が始まる前日、ロシア福音同盟の総主事としてウラジミール・プーチン大統領に公開書簡を書きました。その手紙でウクライナの宗教リーダーたちと紛争の平和的な解決をリクエストすることを支持しますと書きました。
- (2) 私たちはロシアとウクライナの平和と調和のために断食と祈りを始めました。
- (3) 私たちの同盟はロシアの人々、ウクライナの人々、ヨーロッパのリーダーと共に、すべての人々との和解のために公の祈りに参加してきました。
- (4) ロシア福音同盟は南ロシアで500人以上のウクライナからの難民に人道的援助を支

援してきました。

(5) 私たちは軍事衝突と政治紛争に対して円卓会議とそれに連なる国際会議を開催しました。

今日、一市民として、またロシア福音同盟の総主事として、今回の軍事侵攻によって、全ての苦しみの中にある人、愛する人、親族を失った方、また、自分の住まいを失った方に対して謝罪いたします。

どうか、主からの力を見出し、連帯と赦しの手を広げてくださるようにと祈ります。そうして、世界の神の人民として共に生きることができるようにと祈ります。

私たちの天の父が私たちすべてを助けてくださるよう。

心からの尊敬を込めて、主にあるあなたの兄弟より。

ヴィタリー・ヴラセンコ
ロシア福音同盟・総主事

(翻訳 JEA 理事・神戸博央)